S-6　気仙沼市東中才地区　　2012 年 1 月 27 日（金）

報告者名　梅屋　潔　　被調査者生年　① 1937 年（男）、② 1938 年（女）
調査者名　梅屋　潔　　被調査者属性　鹿折八幡神社宮司（元気仙沼市職員）とその妻

震災当日の様子とその後の影響

震災当日は神社にいた。鹿折川を遡上した津波は神社の前の通りまで到達し、自分の身長から推計すると道路から 180 センチほどの高さにまで至った。在宅していた近所の人々はみな本殿までの階段を上って避難し、3 日 3 晩社務所兼住居であるここに滞在していた。

実感としては震災前に 1,800 軒、約 2,500 世帯あった氏子が、600 戸ほど、3 分の 1 に減った感じ。300 戸分は持参したが、記録によれば以下のように激減。平成 22 年に大麻は 2,174 戸だったが、平成 23 年には 1,202 戸に減少。幣束は、1,677 から 776 へ。恵比寿・大黒は、1,316 から 676 へ、年始は 320 から 180 へ。神遊は今年は 80 だった。

この神社に奉納されるのは、浪板虎舞のほか、ニシハチ（西八幡前）に最近（10 年ほど前）できた八幡太鼓（リーダーは A 氏。もとは唐桑の人で婿に来た）、中才うちばやし、などがあるが、「むっつけ八幡」とよばれ、へそ曲がりが多く、それほど何かに「ハマル」ことがないので盛り上がりに欠ける部分もある。

宮司が被災したため、正月の幣などの配布に支障をきたしている事例もよく耳にしている。階上（はしかみ）、長磯の近辺の秋葉神社宮司の B 氏、大谷海岸の近くの本吉の滝上神社の C 氏などがそうである。

近隣の今年の正月

鹿折では、星の玉（ほしのだま）は、東八幡前で書道をしている D 氏が書いたものを使っている。ほかにももう一人いるようだが、このあたりでは彼が書いたものを使うのが一般的である。開運福禄寿のキリコは、先代の宮司、E 氏がはじめたものだ。お札やキリコ、カキダレなどはすべて神社で手作りで作成する。

八幡様のオサガリとトーメー

中才がトーメー（当前）の際、中才のうちばやしは、神輿渡御についていくが、鶴ヶ浦まで着いたら、トラックで引き上げているようである。浪板の虎舞が船に乗ったかどうかも、よく覚えていない。例祭ではなく、べつの時ではないか。四ヶ浜がロクシャクになっていないのは、そういった歴史的経緯があったと聞いている。自分たちはロクシャクはやらないがその代わりに船を出す、との取り決めとなったといわれる。しかし自分が子供のころはすでにトーメーがあったので、それ以前のことであろう。

オサガリとオヤド（お宿）

ところどころの休憩所をヤスミバ（休み場）とかオヤド（お宿）という。平成 22 年の例では、18 ヵ所のオヤドがある（図 1 参照）。ロクシャク（陸尺）全員分の御膳と酒を準備してもてなす。一ヵ所 10 分から 15 分ほど。指名されるのが名誉なことであり、出費もかさむ。

以下の家が中心的な役割を果たす。北から、① では、幣束のヤドである「木戸脇」（屋号、以下同じ）、「久保」らが協力して準備する。② 両沢では、「仁井屋」、「善茶屋」、③ 一本杉（地名）では、F 氏と G 商店、そして H 氏、④ の鹿折八幡神社近辺では「森ヶ口」、「東（ひがし）」、「杉の下」、「山田」、⑤ 大橋では、「洞」、⑥ 油茶屋（地名）では「西城」、⑦ 十文字目では新しい家が多いので協力してやっているようだ。⑧ 過去総代長だった「I 商店」（別名カネショウ、フカヒレを扱っているという）、⑨「J 商店」（水産加工業）、⑩ は消防会館。⑪ 飯綱会館では別当の「長浜」、「井戸端」、「田中」、「マチカド」、⑫ 浪板 2 地区では、「日渡（ひわたし）」、「鳥越」、⑬ 大浦では、「大家（おおい）」、「長浜」、⑭ 小々汐では「大家（オオイ）」、⑮ 梶ヶ浦では「丸川」ここは K 水産としても知られる。長男は後を継がず、L 商店の向かいに居住）、「釜崎」、最後の鶴ヶ浦（⑯）では、「大家（オオイ）」、「宮の前」、「御御嶽（オミタケ）」。⑰、⑱ については、⑩ の消防会館同様、新しい家が多いので旧家が中心となってやっているというよりは自治会組織で行っているようだ。

八幡神社宮司の系譜

鶴ヶ浦の両 M 家は、それぞれが本家だと主張している。

また西八幡前の N 氏の家は「八幡寺」を名乗り、正月の幣（ぬさ）も 3 本別だてのもので、1 軒だけ特殊なものである。初めは信用していなかったが、八幡神社の碑に「八幡寺」の記述があったので本当らしい、と考えるようになった。

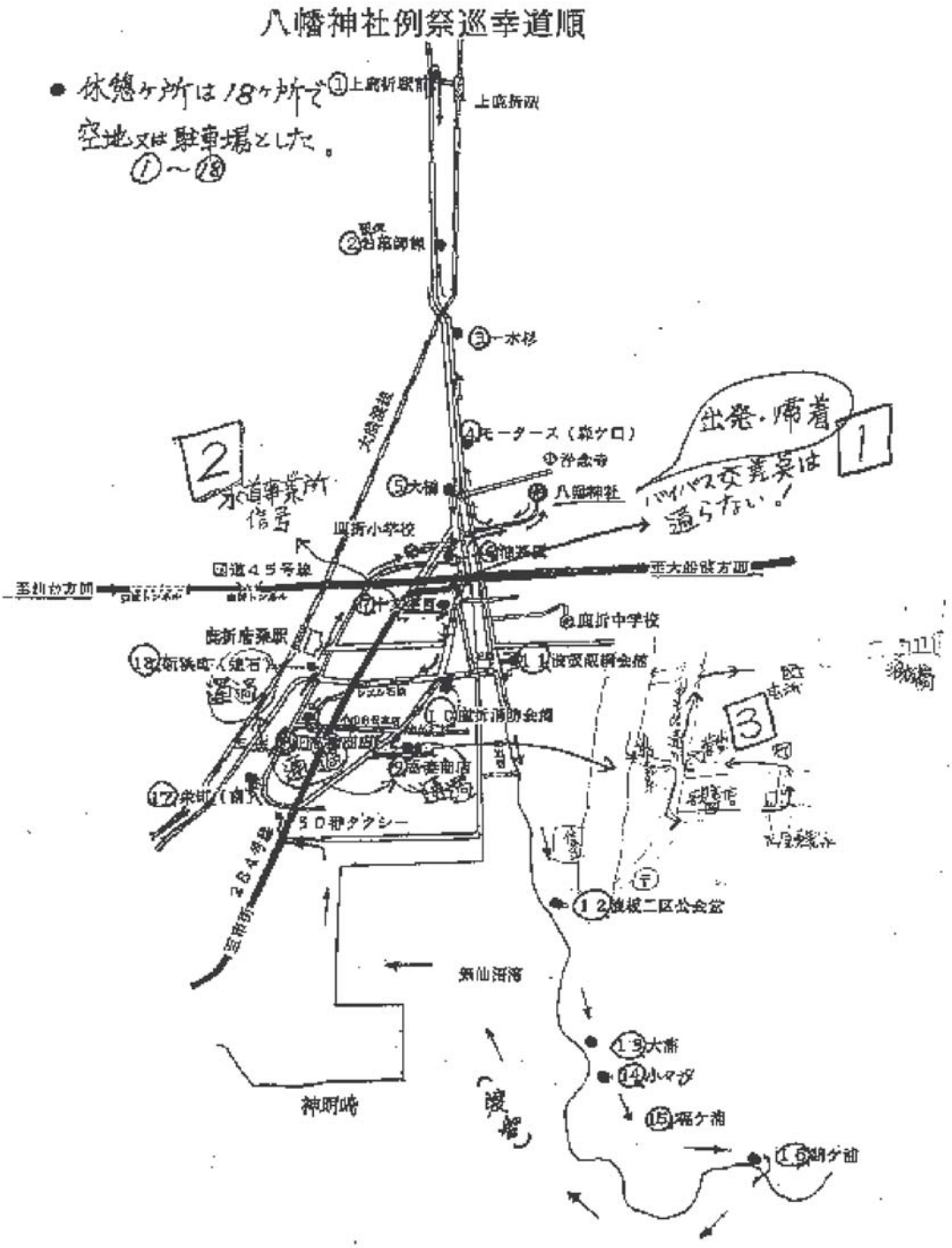

図１　八幡神社例祭巡幸道順